

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	大覚野牧場管理運営費					
担 当 課 係 名	農 林 課		農 務 係		作成者	浅利芳宏
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	特色ある資源を活かした産業創造のまち				総合計画の ページ
	基本計画	特色ある農業の振興				
	主要施策	畜産の振興				62・63
予 算 費 目	一般 会計	6 款 農林水産業費	1 項 農業費	4 目 畜産振興費		
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		継続	
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☒ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等	仙北市営牧場条例、同牧場管理規則、牧野法					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☒ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	肉用牛農家の預託放牧と生産物（乾草）販売
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	黒毛和種繁殖経営を主体としている本市の畜産は、水稻、野菜等の耕種農業の地力増進対策の見地からも複合作目の重要な部門と位置づけられている。特に近年、経営規模拡大により、耕種農業との労働力の分散を図る上で、公共牧場の果たす役割は大きくなっている。また、肉用牛生産振興の拠点として粗飼料生産基盤の充実を図る必要がある。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	夏期間の預託放牧、粗飼料生産販売業務及び景観保全等の草地維持管理業務

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	牧場面積	目標	ha	176	176	176	
			実績	ha	176	176	176	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
	成果指標	放牧頭数	目標	頭	90	90	95	
			実績	頭	152	180	147	
			達成度	%	168.9%	200.0%	154.7%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				7,034	6,738	7,165	
	人 件 費 (B)		—		15,706	16,142	15,850	
	職 員 数		—		2.00	2.00	2.00	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				22,740	22,880	23,015	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他				4,683	5,812	4,717
		一 般 財 源				18,057	17,068	18,298
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		129,205	130,000	130,767
市民1人当たりのコスト(円)		—		713	728	741		

【事務事業の今までの成果】

放牧頭数	H18	152頭	(延べ放牧日数	13,203日)
	H19	180頭	("	17,461日)
	H20	147頭	("	14,564日)

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	公共牧場の再編や、統廃合が行われてきた中、現存する公共牧場の役割は大きく、国、県でも肉用牛の増頭対策を行う上で、公共牧場は必要不可欠であると、位置づけている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	放牧の有利性が各農家に浸透し、放牧利用希望が年々増加しているため、現在利用している草地だけでは、窮屈となっているため、遊休地の整備改良を早急に実施するよう要望がある。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	耕畜連携農業の推進により、畜産農家の担う役割は大きいですが、担い手の高齢化等により、畜産農家戸数は、減少傾向にある。しかし、大規模化する経営体も出現し、飼養頭数は横ばい傾向にある。こうした大規模化を目指す農家や、他作目を取り入れた複合経営農家では、公共牧場を無くして、経営は成り立たないという声が大きく、今後も引き続き実施していくことが望ましいためAと判定した。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	畜産の大規模化や農業経営の複合化の推進において重要な役割を担っており、継続すべきと考えます。

